

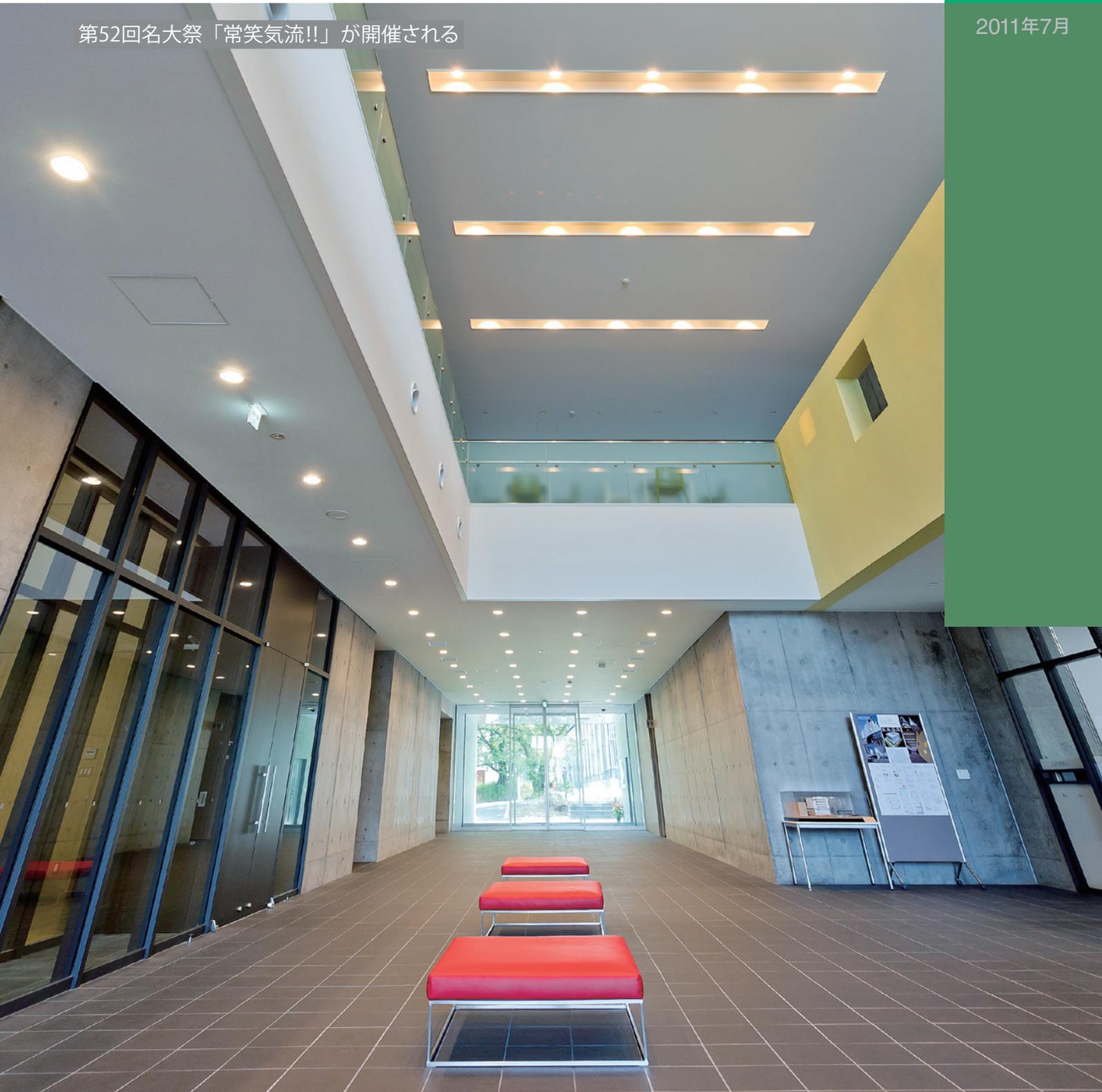
名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.218

2011年7月

第52回名大祭「常笑気流!!」が開催される



目次

●ニュース

第52回名大祭「常笑気流!!」が開催される	3
震災関連シンポジウム「東日本大震災から学ぶ」を開催	4
第4回AC21学生世界フォーラムを開催	5
「日本デー」を開催	6
平成23年 春の叙勲・褒章受章者決まる	7
航空機開発 DBT リーダーシップ養成講座開講式を挙る	7
キャンパスクリーンウィークを実施	8
第68、69回防災アカデミーを開催	8

●知の未来へ

脳の中で動く細胞集団を追う	9
榎本 篤 (大学院医学系研究科特任准教授)	

●知の先端

アルツハイマー病の原因蛋白質 APP の輸送調節システムの解明	10
久本 直毅 (大学院理学研究科准教授)	

●部局ニュース

工学研究科中央棟・素粒子宇宙研究棟完成記念式典を挙る	12
第8回日本語教育学講座講演会を開催	13
太陽地球環境研究所一般公開を開催	13
地球水循環研究センター特別セミナーを開催	14
ICCAE 第2回オープンセミナーを開催	14
三矢保永写真展「空・雲・光」を開催	15
博物館野外観察園春の見学会を開催	15
第1回体験ワークショップ「石器から学ぶ文化と自然」を開催	15
附属図書館が2011年春季展を開催	16
第23回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催	17

●受賞者一覧

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成23年5月16日～6月15日	21
---------------------------------	----

●イベントカレンダー

●ちょっと名大史	24
----------	----

名大祭以前の名大大学祭	28
-------------	----

第52回名大祭「常笑気流!!」が開催される





- | | | |
|---|---|--------------------|
| 2 | 3 | 1 豊田講堂前の芝生に設置された看板 |
| | 4 | |
| 1 | | 3 模擬店の様子 |
| | | 4 会場の様子 |

第52回名大祭が、6月2日(木)から5日(日)までの間、「常笑気流!!」をテーマに開催されました。

今回は3月11日に東日本大震災が発生したことを受け、「名大祭を通して自分たちに何ができるか」と考えた名大祭本部実行委員会は、開催まで日が迫っている中で当初予定の見直し作業を進め、企画内容等の変更や新たな企画の追加を行いました。来場者から義援金を募集するとともに、実行委員会が出店した企画の売上金を義援金としたことから、計40万円の義援金が集まりました。実行委員会は文部科学省の「子どもの学び支援ポータルサイト」を通じて、集まった義援金を寄附します。

名大祭に先立ち、毎年5月にプレ企画として中区栄周辺路上で開催してきた「仮装行列」は内容と場所を変更し、「仮装大運動会」として5月22日(日)に東山キャンパス内において実施しましたが、当日はあいにくの雨により途中で中止となりました。

名大祭期間中、初日は雨の中のス

タートとなりましたが、2日目以降は雨もなく、学生や親子連れを中心に多数の来場者で賑わいました。

3日(金)の夕方には、近隣の方々の協力による恒例の盆踊り企画「浴衣でおどらナイト!」が開催され、参加者がともに輪を描いて踊りを楽しみました。

4日(土)には、前回の名大祭に引き続き、目玉企画として実行委員会主催による学術講演会が企画され、今回は「スゴイ日本人になるためには」をテーマに、濱口総長と東海テレビアナウンサーの高井 一氏の講演が行われました。それぞれの立場と深い経験から、グローバル社会における日本人の理想の在り方についての知見が披露され、会場に集まった多くの聴衆が熱心に耳を傾けていました。

4日(土)、5日(日)に第2グリーンベルト北側の路上で実施された「模擬店ストリート」では、前年に引き続き厳しい衛生管理のもとで40店舗の屋台が飲食物を提供し、各店舗に長い行列ができるなど、大変な賑わいを見せました。

その他、研究室公開などの学術的な企画や、お笑い、大道芸、音楽サークルの演奏会など多様な企画がキャンパスの各所で開催され、それぞれの会場で来場者と運営する学生との活発な交流がありました。

最終日には、正しい防災知識により少しでも震災の不安を解消し、笑顔を広げたいという思いから、山岡環境学研究所附属地震火山・防災研究センター長による「私たちがいつも笑顔であるために～来る東海地震にそなえて～」と題した講演が開催されました。

また、豊田講堂前庭の特設ステージにおいて「VivaLa 後夜祭!! ～感じよう最終章!!～」が行われ、日が落ちて夕闇に浮かび上がる豊田講堂を背に、ステージと来場者が一体となったダンスや、神秘的な火舞の演技が祭の最後を締めくくり、東海地区最大規模の大学祭「名大祭」が無事に終了しました。

震災関連シンポジウム「東日本大震災から学ぶ」を開催



あいさつする総長

震災関連シンポジウム「東日本大震災から学ぶ」が、6月11日(土)、豊田講堂において、学術研究懇談会 RU11 (Research University 11) との共催で開催されました。前夜からの雨にもかかわらず、1,000名を超える一般の方々が参加し、会場は満席となりました。

RU11とは、最先端科学の研究と教育を担う日本の主要研究大学(北海道大、東北大、筑波大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、東京工業大、京都大、大阪大、九州大学及び本学)による組織です。

当日は東日本大震災からちょうど3ヶ月目の節目であることから、まず、震災の犠牲者に黙祷を捧げました。続いて濱口総長から、震災の教訓を今後の防災に活かすためにも、本学は「勇気ある知識人」として、震災についてわかった真実を市民に分かりやすくお伝えする、とのあいさつがありました。

引き続き、隈本邦彦環境学研究科客員教授が、「東日本大震災で何が起きたか?」と題して、ニュース映像を交えてこの震災の概要を振り返り、阪神・淡路大震災に次ぐ大震災としての特質と教訓をまとめました。その後、



黙祷を捧げる参加者



総合討論の様子

鷺谷 威同研究科教授が「なぜ巨大な地震が起きたか?」、水谷法美工学研究科教授が「甚大な津波被害が起きた理由」と題し地震と津波について解説しました。

さらに、森田美弥子教育発達科学研究科教授が「被災者の心理的問題とその支援」、山本章夫工学研究科教授が「福島第一原子力発電所事故の概要」、西澤邦秀名誉教授が「放射線による健康への影響」と題し、今回の震災被害を解説しました。

最後に、福和伸夫環境学研究科教授が「これからの大震災に向けて」と題し、歴史を振り返って安全なまちづくりを行う重要性を指摘しました。

講演者は、地震学、海岸工学、臨床心理学、原子炉物理学、放射線安全学、地域防災学などの第一線の研究成果に基づきながらも、難解な専門用語を使わず、丁寧に解説していました。講演の後の総合討論では、会場からの質問に対して講演者が率直に回答しました。

シンポジウム後に回収したアンケートには、わかりやすかったなど好意的な意見が多数寄せられましたが、一方で、内容が多岐に渡り、一つひとつの話題を十分に掘り下げることができなかったという反省も残りました。

今回の東日本大震災というテーマは、1回のシンポジウムではとても語り尽くせず、そのことに災害の大きさを改めて痛感しました。また、大震災から学ぼうという一般の方々の意識の高さに、本学の使命を再確認する機会となりました。

第4回 AC21学生世界フォーラムを開催



フォーラムでの記念撮影

第4回 AC21 (国際学術コンソーシアム) 学生世界フォーラムが、5月15日(日)から21日(土)の間、タイ チュラロンコン大学において開催されました。同フォーラムは、2年に一度、AC21メンバー校において開催されるもので、これまで、2005年に本学、2007年にフランス ポンゼジョセ工科大学、2009年にドイツ ケムニッツ工科大学において開催されました。4回目となる今回は「持続可能な農村開発」をテーマに開催され、AC21メンバー校から本学の学生3名を含む36名、チュラロンコン大学から26名の学生が参加しました。

開会式では、ピロム・カモルラタナクル チュラロンコン大学長及び渡辺副総長があいさつし、米澤彰純国際開発研究科准教授が「持続的発展に向けた大学と学生の役割」についてプレゼンテーションを行いました。その後、学生はバンコクからバスで南へ約3時間のところにあるペッチャブリー県ハイ・サイ学習センターに移動し、同センターを見学しました。その後2日間に渡り、「土壌改良」、「貯水池システム」、「森林再生」及び「足るを知る経済」について講義を受け、さらに、インド原産の多年草である

ベチベルソウの植栽を経験したり、地元の農家を訪問したりしました。夕食時には、国やグループ毎に趣向を凝らした出し物をするなど、お互いの文化に対する造詣を深めました。バンコクへ戻った学生は、基調講演を聴講し、2グループに分かれて発表を行い、最後に村瀬 潤生命農学研究科講師を交え質疑応答を行いました。最終日には、王宮、ミュージアム・サヤムを見学し、タイの文化に触れました。

なお、フォーラムの開催に合わせ、15日(日)、16日(月)の両日、第9回 AC21運営委員会が開催されました。AC21学生世界フォーラムと AC21運営委員会を同時期に同じ会場で開催するのは、今回が初めての試みでしたが、AC21運営委員会参加者にとって、学生達と接し、カセサート大学など加盟校を訪問する大変有意義な機会となりました。

委員会では、様々な議題について話し合わせ、AC21の今後の方針について、いくつかの方向性が示されました。また、開催が決定しているフォーラムの準備状況が各開催大学から発表され、以前にも増して、今後 AC21をどのように活用していくか、具体的な提案を交えた話し合いが行われました。今後ますますの発展が期待されます。



運営委員会会場の様子

「日本デー」を開催

「日本デー」が、6月9日(木)、10日(金)の両日、ドイツフライブルク大学において開催されました。

これは、今年が日本とプロイセン間で修好通商条約が締結され150周年の節目となることから、日独交流150周年を記念する行事が各地で行われており、その一環として、本学の学術交流協定校であるフライブルク大学との共催で開催したものです。

本学からは、渡辺副総長、多和田経済学研究科長、近藤高等研究院長等が出席しました。

「日本デー」前日には市内のレストランにおいてレセプションが開催され、水谷 章在ミュンヘン日本総領事、マーガレット・ヴィンターマンテル ドイツ大学学長会議議長から歓迎のあいさつがありました。

「日本デー」は、初日を研究者、2日目を学生の日として開催されました。

初日は、開会にあたりユルゲン・リューエ フライブルク大学副学長及び渡辺副総長から開催のあいさつがあり、続いて、渡辺副総長から本学の教育研究環境に関するプレゼンテーションが行われ、フライブルク大学と協定関係の



プレゼンテーションを行う渡辺副総長

ある立命館大学からも大学紹介が行われました。

また、研究者が日本で研究する際に受けることが可能な助成金等について、日独の教育・研究支援団体から説明が行われました。プログラムの最後では、多和田経済学研究科長とディーター・ショイリン フライブルク大学経済学部長との間で、研究促進に関する覚書の署名・交換が行われました。

2日目は、日本からフライブルク大学へ留学している学生及び日本に留学経験のある学生から、日本の各大学の特色についてプレゼンテーションが行われました。

開催期間を通じて、研究者及び学生を対象にした大学紹介用ブースが設けられ、質問に訪れる学生等に対して情報提供が行われました。

なお、これらの企画は、本学ヨーロッパセンターがフライブルク大学と密接な連携を取り合い実現したものです。



研究促進に関する覚書の署名・交換の様子

平成23年 春の叙勲・褒章受章者決まる

— 本学関係者5名が喜びの受章 —

平成23年春の叙勲及び褒章の受章者が発表され、本学関係者では次の方々が受章されました。

【叙勲】

[教育研究功労 関係]

瑞宝中綬章 横井 英夫 名誉教授(人間情報科学研究科)
元大学院人間情報科学研究科長
元愛知学院大学情報社会政策学
部長・教授・客員教授

瑞宝中綬章 梶川 良一 名誉教授(理学部)

瑞宝小綬章 外山 淳治 名誉教授(環境医学研究所)

[保健衛生・看護功労 関係]

瑞宝単光章 中條 育子 元医学部附属病院看護部
副看護部長

【褒章】

紫綬褒章 近藤 孝男 大学院理学研究科教授
高等研究院長

航空機開発 DBT リーダーシップ養成講座開講式を挙行

航空機開発 DBT (Design Buildup Team) リーダーシップ養成講座が、6月4日(土)、インキュベーション施設において開講しました。同講座は、航空機製造、部品、エンジニアリングなどの会社の方を対象とし、航空機技術及びビジネス英語の習得を通じて、海外のパートナーとの連携による航空機国際共同開発の中で、機体やシステム、担当

部位について、製品の仕様、コスト、開発スケジュール等を設定・管理できるリーダーシップを身に付けた人材を育成することを目的としています。昨年度まで経済産業省中部経済産業局委託事業の実証講座でしたが、今年度から本学独自のプログラムとして、発展的に継続推進することになりました。

開講式では、佐宗章弘工学研究科教授の開会の辞に続いて、鈴置工学研究科長が、国際競争激化の中で、国内航空機産業を担う国際的コア人材の育成に努める旨あいさつしました。

開講式終了後には、早速、講義が行われ、受講生はDBTの概要及び英語によるバリューチェーンの講義等を熱心に受講しました。カリキュラムは、本学教員や航空機製造会社現役の専門家によるDBT基礎技術の講義、ネイティブ英語講師による交渉英語及びプレゼンテーションで構成されており、毎週土曜日の午後に、全15回、PBL (Project Based Learning) 型集中講義により行われます。



開講式後の授業の様子

キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、名大祭終了後の6月6日(月)から10日(金)まで、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、6月の環境月間に環境保全に対する関心を高めるために、平成元年から毎年実施されているもので、名古屋市の一構成員として境界の外周清掃も併せて行い、環境美化に努めています。

本部では、6月8日(水)の午後、高橋事務局長を始めと

した約120名の本部職員が、一斉に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶・紙くず等の除去、雑草等の刈り取り、不要なビラ等の撤去などを行い、汗を流しました。

なお、今年は名古屋市のごみ分別変更時期も重なり、ごみ分別改正内容の説明を行い、参加者側に分別意識を高め、積極的に取り組みました。



説明を受ける職員



奥村施設管理部長(左)と清掃作業をする高橋局長(右)

第68、69回防災アカデミーを開催

第68、69回防災アカデミーが、4月27日(水)、5月18日(水)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。

第68回では、飛田 潤災害対策室教授により「揺れをはかる－東日本大震災の揺れと被害から考える振動モニタリング技術の将来－」と題した講演が行われました。飛田教

授は、東日本大震災により被災した大学への緊急調査の報告を交え、建物の振動をモニタリングすることにより、建物が受けた被害を評価できる可能性があることなど具体例を提示しながら、地震を含めた様々な建物振動の計測に関する研究の話をしました。また、被災した建物の室内で多くの家具が散乱している写真を示し、家具をしっかりと固定することの重要性を改めて指摘しました。125名の参加があり、講演後には活発な議論が行われました。

第69回では、藤原広行防災科学技術研究所総括主任研究員により「地震リスクに知で備える－防災科研における地震災害軽減に向けた取り組み－」と題した講演が行われました。藤原主任研究員は、我が国の基盤的な地震動観測網の整備や、地震防災システムの構築に中心的な役割を担ってきた経験をもとに、地震災害の軽減に向けた様々な取り組みを紹介しました。携帯端末を地震計として使い、クラウドシステムでネットワーク化することにより専門家だけでなく多くの人が関わって地震観測網を構築する例や、東日本大震災の復興を支援するシステムなど最新の話題を沢山盛り込んでいました。136名の参加があり、盛況のうちに終了しました。



第68回防災アカデミーの様子

脳の中で動く細胞集団を追う

大学院医学系研究科特任准教授
榎本 篤

大人（成体）の完成された脳では神経細胞は日々死滅していく一方で新しく作られることはない、とあっていらっしゃる方は多いのではないのでしょうか。少なくとも私は学生の頃はそう信じていましたし、学校で教わった覚えもあります。この考えは神経細胞による神経回路をはじめて記述しノーベル賞を受賞したカハール博士の記述がもとになっています。最近の神経科学の研究成果により、大人の脳の中でも新しく神経細胞が日々生まれ続けていることが分かってきました。この現象は「神経新生」と呼ばれています。

神経新生が観察される代表的な脳の場所が海馬です。海馬は記憶や学習を司る重要な場所であり、このような場所で神経新生が重要であるのは理解できます。現在、私達の研究室ではもう一つの神経新生がおこる場所「脳室下帯」に注目しています。脳室下帯は図1に示すとおり、脳の中にある部屋（脳室）の壁に近い場所を指します。マウスなどのげっ歯類では脳室下帯で新しく新生された神経細胞は長い距離を移動し、嗅覚を司る嗅球ま

で移動して定着します。嗅球で成熟した神経細胞になり、主に嗅覚依存的な行動（フェロモンの情報処理など）を制御していると言われています。

私達の研究室では Girdin と命名した遺伝子の機能解析を行っており、この遺伝子が脳室下帯で生まれた神経細胞の移動を制御していることを発見しました。Girdin 遺伝子を欠損したマウスでは神経細胞が嗅球までたどり着けず、交通渋滞のように滞ってしまうことがわかったのです（図2）。

この脳室下帯から嗅球までの移動は一見、何の変哲もない生命現象にみえますが、成体の中で細胞がここまで長距離を移動する現象は決して多くはありません。成体では組織の構築を維持する機構（交通規制）があり、細胞は簡単には動き回れない仕組みになっています。他に動き回る例を一つ挙げるとすれば、それは癌が発生し、癌細胞が浸潤・転移する時でしょうか。Girdin は癌が浸潤するときにも重要な遺伝子です。ここに次の研究のヒントが隠れているような気がしています。

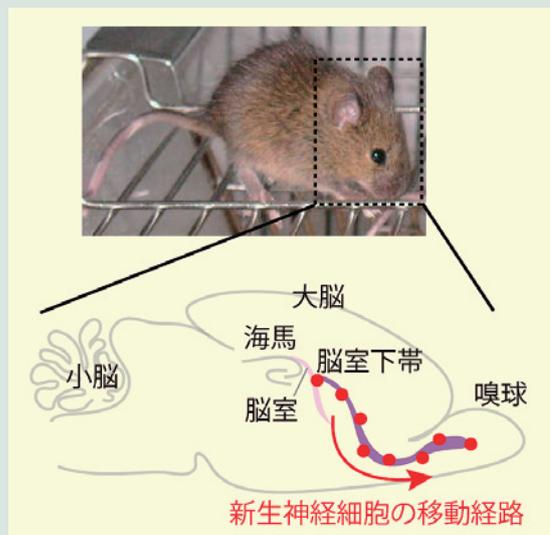


図1 マウスの脳の構造を模式的に示す。脳室下帯で新しい神経細胞が産生され嗅球まで数日から1週間かけて移動する。移動後は嗅球で新規の介在神経細胞に分化することが知られている。

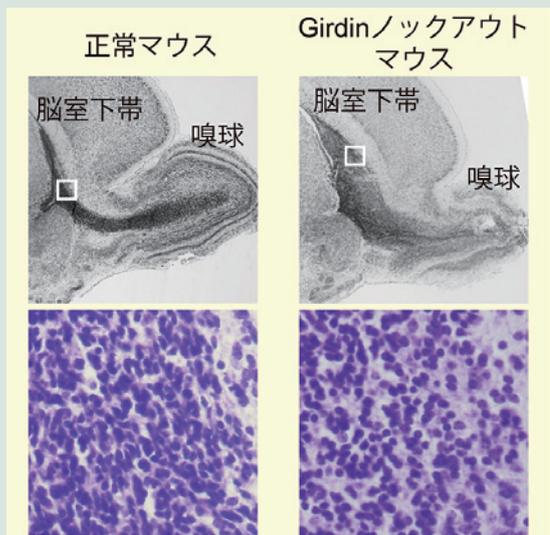


図2 正常（野生型）マウスおよび Girdin ノックアウトマウスにおける神経細胞の移動。Girdin ノックアウトマウスでは神経細胞の移動が制限され、交通渋滞のように途中で停滞していることがわかる。強拡大で見ると、正常マウスでは鎖のように連なって集団で移動しているが、ノックアウトマウスでは個々ばらばらに散在していることがわかる（下段）。

アルツハイマー病の原因蛋白質 APP の輸送調節システムの解明

久本 直毅 大学院理学研究科准教授

アルツハイマー病は日本国内だけで60万人以上の患者がいる神経変性疾患であり、その数は増加の一途を辿っています。アルツハイマー病の多くは非遺伝性(孤発性)ですが、一部には遺伝性(家族性)のものがあり、そのような患者を対象にした遺伝学的研究から、アミロイド前駆体蛋白質(APP)の変異がアルツハイマー病発症の原因になることが明らかになっています。興味深いことに、APPをコードする遺伝子がたった1コピーふえるだけでアルツハイマー病を発症させることや、加齢によりAPPが神経細胞の軸索と呼ばれる突起構造に蓄積するという知見等から、APPの蛋白質量の増加がアルツハイマー病発症の原因のひとつではないかと考えられています。

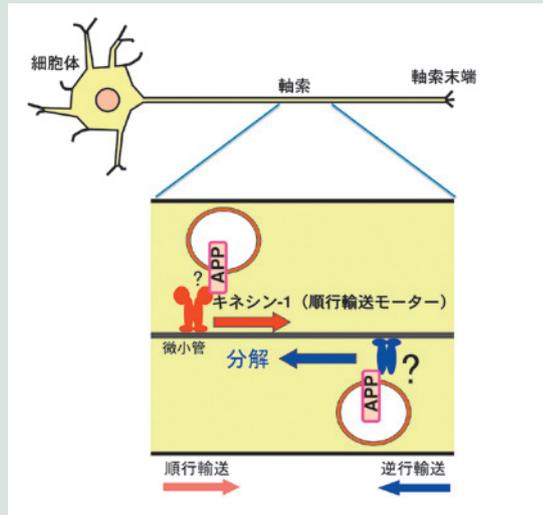


図1 神経細胞におけるAPPの輸送
神経細胞には軸索と呼ばれる長い突起がある。APPはその中を軸索先端方向(順行)、あるいは細胞体方向(逆行)に輸送される。

神経細胞において、APPは細胞体で作られた後、そこから軸索末端に輸送(順行輸送)されることにより軸索に局在します。その後、APPは軸索末端から細胞体へと輸送(逆行輸送)され、最後には分解されます(図1)。これまでの解析では、APPの順行輸送はキネシン-1と呼ばれる順行輸送用のモーター蛋白質により、微小管とよばれる線路の上を移動することによって行われることが示唆されていました。しかし、APPの逆行輸送を担うモーター蛋白質はわかっていませんでした。

APPは種を越えてよく保存されており、体長1-2ミリの透明な土壤生物である線虫 *Caenorhabditis elegans* にもAPPが存在しています。線虫はモデル生物として数々の利点をもっているだけでなく、ヒト遺伝子と相同な遺伝子(ホモログ)がたくさん存在しており、それらはヒト遺伝子と同様な機能を持つと考えられています(図2上)。それらの中には、ヒトのアルツハイマー病やパーキンソン病、高血圧症やがんに関わる遺伝子など、ヒト疾患に関与する遺伝子の多くが含まれています。そこで、研究が難しいヒトや高等脊椎動物の代わりに、線虫やショウジョウバエなどを利用してそのような遺伝子の機能を明らかにする研究が世界中で広く行われており、実際にヒト遺伝子の理解に繋がるさまざまな成果が得られています。当研究室では、松本邦弘教授のリーダーシップの下、線虫をモデル動物として線虫からヒトまで種を越えて保存された遺伝子の機能を個体レベルで明らかにする研究を行っています。そのひとつとして、私は大学院生の有元と共に線虫APPの神経細胞内での輸送制御機構の解析に取り組みました。

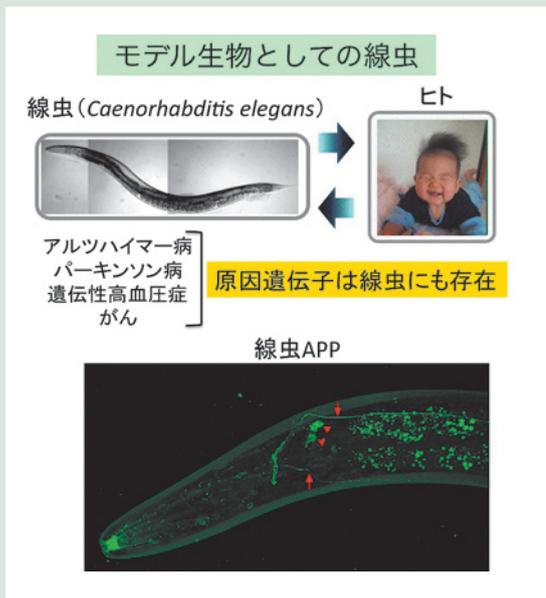


図2 線虫をモデルとした解析
 (上) 線虫とヒトは遺伝子レベルで類似しており、ヒト疾患に関わる遺伝子の多くが線虫にも存在する。(下) 線虫APPの発現をGFPで可視化したもの。矢印が神経の軸索を、矢頭が細胞体を示す。

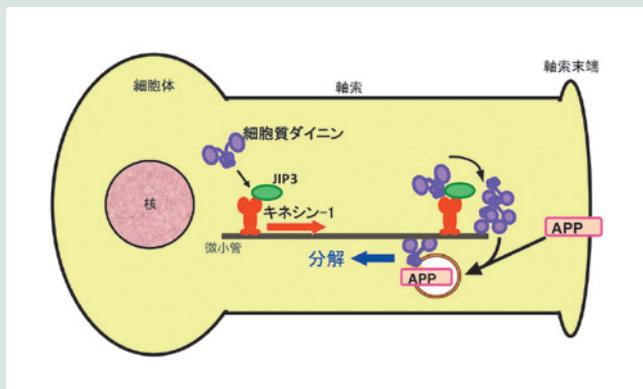


図3 キネシン、JIP3および細胞質ダイニンによるAPPの制御機構

その結果、順行輸送を行うモーター蛋白質であるキネシン-1、キネシン-1結合蛋白質であるJIP3および細胞質ダイニンが、いずれもAPPの順行輸送ではなく逆行輸送に必須であることを、緑色蛍光蛋白質 (GFP: ノーベル化学賞を受賞された名古屋大学特別教授の下村脩博士が発見した蛋白質) を用いて生体内でのAPPの動きを直接観察することにより明らかにしました (図2下)。さらなる解析により、キネシン-1/JIP3複合体がまず細胞質ダイニンを軸索へと輸送し、その後APPが細胞質ダイニンによって細胞体へと逆行輸送されることにより、軸索でのAPPの蛋白質量が制御されることもわかりました (図3)。今回明らかになったAPPの逆行輸送機構を担う因子群は、APPの軸索への蓄積を防ぐことにより、ヒトにおいてもアルツハイマー病の発症や進行を抑制するのに重要な役割を果たしていると推測されます。今回の成果はあくまでモデル生物での話であり、またヒトのアルツハイマー病克服にどのくらい寄与できるのかについても未知数ですが、今後さらに研究を進めることにより、アルツハイマー病発症の理解、ひいては予防や発症・進行を阻止する方法の開発につなげることができればと考えています。

略歴: 1990年 九州大学理学部卒業
 1992年 九州大学大学院理学研究科修士課程修了
 1995年 名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程修了
 日本学術振興会特別研究員
 1996年 名古屋大学大学院理学研究科助手
 2004年 名古屋大学大学院理学研究科助教授
 2007年 名古屋大学大学院理学研究科准教授

ひさもと なおき



ひとこと: モデル生物での研究は面白いです。興味のある学生は当研究室にどうぞ。

工学研究科中央棟・素粒子宇宙研究棟完成記念式典を挙行

●大学院工学研究科、大学院理学研究科



謝辞を述べる益川機構長

大学院工学研究科及び理学研究科は、6月1日(水)、工学研究科中央棟・素粒子宇宙研究棟（ES（Engineering and Science）総合館）1階ESホールにおいて、同館完成記念式典を挙行了しました。

式典には、学外から、岡 誠一文部科学省大臣官房文教施設企画部技術参事官、澤木宣彦名誉教授、山根義宏名誉教授等、学内からは、濱口総長をはじめとする役員、益川素粒子宇宙起源研究機構長、國枝理学研究科長、鈴置工学研究科長等合わせて約100名が出席しました。

鈴置研究科長、國枝研究科長の式辞に続き、総長及び岡技術参事官からのあいさつがあった後、益川機構長から謝辞がありました。続いて、施設計画推進室長である谷口 元工学研究科教授及び恒川和久工学研究科講師から工事及び建物の概要報告がありました。

なお、式典の前には施設見学が開催されました。



あいさつする岡技術参事官

ES総合館の建設は、老朽化し、耐震性も不足していた工学部旧4号館及び事務棟の全面改築と、大学院理学研究科の素粒子宇宙研究分野の新築計画とを合わせ、平成21年度から2年計画で整備が進められました。1、2階が鉄筋鉄骨コンクリート造、3～7階が鉄骨造で、延床面積15,280平方メートルで、1階から5階までが工学系の研究室、工学部事務部等、6階・7階が素粒子宇宙起源研究機構の研究室等が入り、館内の全照明にLEDを取り入れ、種々の低炭素エコキャンパス実現のための低環境負荷の建築物となっています。

建物内には、ホール、会議室、図書室、講義室、2008ノーベル賞展示室・ギャラリー、レストランを配し、学会等の催しなど教育研究に大いに活用されることが期待されます。



集合写真



ES総合館外観

第8回日本語教育学講座講演会を開催

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科は、5月25日(水)、全学教育棟において、第8回日本語教育学講座講演会を行いました。

今回は、現在、アメリカ・パデュー大学でe-learningシステムの開発や運営などに関わっている元本学総合言語センター・言語文化部助教授の深田 淳同大外国語外国文学文学科准教授・先端技術言語学習研究所所長が「外国語教



講演する深田准教授

育スピーキング指導におけるテクノロジー利用」と題し講演を行いました。当日は、深田准教授に指導を受けたことのある研究者や学生など多くの参加者がありました。

玉岡賀津雄国際言語文化研究科教授の司会により始まった講演では、まず、外国語においてはスピーキング能力が不可欠であるにもかかわらず、スピーキング指導が必ずしも充実していない現状を指摘し、オンライン上のスピーキング練習システムの有用性を提案しました。さらに、従来スピーキングテストは対面式で単発的に実施されるに過ぎなかったのに対して、パデュー大学のシステムでは、学期中継続してオンライン上のスピーキングテストを受けることで、継続的オーラルアセスメントが実現する、と説明しました。

参加者からはこのシステムの実際の運用に関する質問が多く寄せられ、日本でのスピーキング教育向上の道筋を模索する機会となりました。

太陽地球環境研究所一般公開を開催

●太陽地球環境研究所

太陽地球環境研究所は、6月4日(土)、共同教育研究施設1号館にある各研究室及び宇宙線望遠鏡研究室において、同研究所の一般公開を行いました。

午前中、来場者は大学院生などから研究内容の説明を受け、世界各地に設置されている観測装置を実際に見たり、コンピュータを使ったシミュレーション実験を体験したり



講演会の様子

していました。さらに、放電箱や霧箱などの可視化放射線検出器を用いて宇宙線粒子の飛跡を観察したり、過去の宇宙線強度や太陽活動を調べるための試料となる直径1.7mの屋久杉年輪を間近で見物しました。

午後には、高等総合研究館カンファレンスホールにおいて、一般講演会が開催されました。平原聖文太陽地球環境研究所教授による「宇宙で測るオーロラの光と素」と題した講演では、極域の夜空を彩るオーロラの光とその「素」を宇宙から探る研究について、オーロラの原理から衛星観測による研究の最前線まで分かりやすく紹介されました。また、水野 亮同研究所教授による「南極から見る空と宇宙」と題した講演では、第52次南極観測隊として滞在した昭和基地の生活や南極で展開されている成層圏や宇宙の研究などの幅広い研究活動の状況が説明されました。

会場には約90名の参加者が集まり、立ち見ができるほどの盛況ぶりでした。それぞれ講演後に、「オーロラの色は何か?」、「オゾンホールはどうして南極で現れるか?」、「宇宙の研究と地球の研究はどう関係しているのか?」など多くの質問があり、熱気あふれる講演会となりました。

地球水循環研究センター特別セミナーを開催

●地球水循環研究センター

地球水循環研究センターは、6月3日(金)、同センター大講義室において、地球生命圏研究機構及びグローバルCOEプログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」との共催で、特別セミナーを開催しました。

セミナーでは、スイス連邦工科大学名誉教授の大村あつむ同センター客員教授が「地球温暖化に関する全球エネルギー

収支の問題点」と「20世紀以降に於ける雪氷圏の変化」の2テーマについて、講演を行いました。

前者のテーマについては、全球の気候システムを定量的に理解する上で、全球の放射収支こそが最も支配的な過程であることを様々な観測データを示しながら説明し、そのことから、現在進行中の気候変化の原因が大気中二酸化炭素濃度の上昇である事を説明しました。

後者のテーマについては、氷河の変化を継続観測する国際ネットワークを構築した自身の経験を説明し、そのような雪氷圏の観測結果が指し示す過去100年間の気候変動について説明しました。そして、20世紀には一時的に寒冷化が進行した時期もあったものの、少なくとも最近30年間においては急速な温暖化が進行していることを示しました。

教員や大学院生など60名の参加があり、質疑応答が活発に行われ、セミナー後には懇親会も開催されました。



会場の様子

ICCAE 第2回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力センター

農学国際教育協力センター (ICCAE) は、5月30日(月)、2011年度第2回オープンセミナーを開催しました。

今回は、上智大学准教授である北村友人同センター客員教授が、「持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development) とは何かー途上国における教育の可能性ー」と題し講演しました。2001年に開かれた「持続可能な開発に関する世界首脳会議 (ヨハネスブルグ・サミット)」で合意されたESDは、日本政府が中心となっ

て提唱された概念です。

北村客員教授は、国際的なESDへの取り組みを中心に、途上国における教育や人材育成のあり方について話し、講演後は熱心な議論が展開されました。

大学の国際協力の主眼が人材育成にある以上、同センターが関わっている国際協力においても、このような取り組みを積極的に取り入れながら、人材育成の方法を考えていきます。



講演する北村客員教授



会場の様子

三矢保永写真展「空・雲・光」を開催

●博物館



展示室の様子

博物館は、4月18日(月)から5月27日(金)までの間、博物館野外観察園セミナーハウス2階展示室において、三矢保永写真展「空・雲・光」を開催しました。

撮影者である三矢保永氏は本学工学部の名誉教授であり、山登りと写真撮影を趣味とし、光と雲と山の彩りを撮影対象として写真を撮り続けています。今回は光と雲が織り成す光学現象や、珍しい自然現象の写真を集めて展示しました。

これらの作品は、登山の折、移動中の飛行機の中、日常生活でのふとした瞬間に撮影したもので、見つけた自然の美しさが時機を逃さずとらえられています。それぞれの現象が科学的にはどのようにして起こっているのか、三矢氏により詳しく解説され、来園者は熱心に耳を傾けていました。

博物館野外観察園春の見学会を開催

●博物館



走査型電子顕微鏡で観察する参加者

博物館は、5月25日(水)、野外観察園において見学会を開催しました。

同園は東山キャンパスの南西にある緑地で、草木の生態を観察できる「生きた展示場」となっています。今回は、葉とハッチョウトンボをテーマに開催し、60名の参加がありました。

5月は花の盛りが一段落し、新緑が美しい季節です。参加者は同園についての説明を受けたあと、まず日本最小のトンボであるハッチョウトンボを観察しました。次に、ウツボカズラなどを実際に見ながら、葉の役割や変形した葉などの解説を聞きました。

また、博物館で、走査型電子顕微鏡ミニスコープを使用し、トンボや葉の微小形態を観察しました。参加者は、ハッチョウトンボの複眼やウツギの葉の星型の毛など、肉眼では想像もしなかったミクロの姿に、驚きの声をあげていました。

第1回体験ワークショップ 「石器から学ぶ文化と自然」を開催

●博物館



黒曜石の石器づくりを体験する参加者

博物館は、6月11日(土)、第1回体験ワークショップ「石器から学ぶ文化と自然」を開催しました。抽選で選ばれた小・中学生とその保護者を含む20名が参加した今回は、「黒曜石が産んだ石器文化」をテーマとし、参加者は、本物の石器や岩石標本の他に、用意された様々な石器レプリカに実際に触れ、使う体験をしました。

まず、実験室において、黒曜石を見分ける、質を実感する、他の火山岩と比べる、石器の形を見分ける等の体験学習を行った後、同館玄関前に移動し、黒曜石の石器を作りました。自然物としての黒曜石について知るとともに、ヒトの進化と密接な関わりがあった石器技術を学びました。

今年度も第2回以降の体験ワークショップ「石器から学ぶ文化と自然」を実施し、地域貢献と次世代教育を継続する予定です。

附属図書館が2011年春季展を開催

●附属図書館



展示会場の様子

附属図書館及び同館研究開発室は、4月12日(火)から5月9日(月)までを前期、5月13日(金)から6月9日(木)までを後期として、2011年春季展「古筆切をたのしむ」を開催しました。

今回は、前期を「『新古今』の時代」、後期を「南北朝の人びと」と、2つの時代に分けて展示しました。

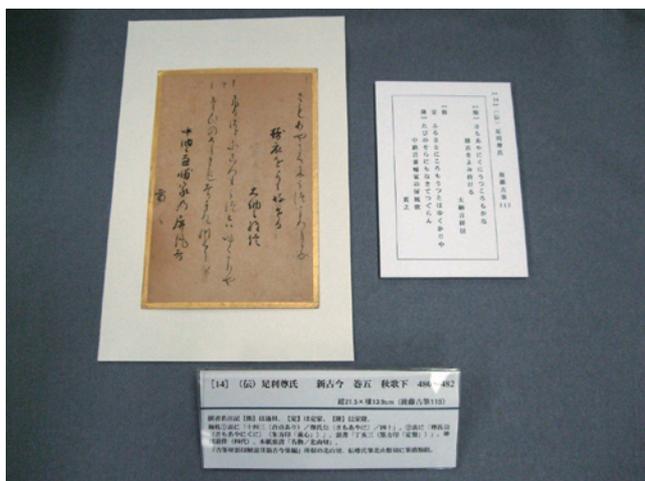
古筆切(こひつぎれ)とは、古人の筆跡で書かれた歌集や物語の巻物や冊子が、数行または一葉に分かれて伝来したもので、展示では、同館所蔵の『新古今和歌集』の古筆切の中から、後鳥羽院や足利尊氏などが書いたとされる名品を厳選して紹介しました。

展示をした43点の古筆切は、同館所蔵コレクション「後藤文庫」から選びました。「後藤文庫」は、本学文学部の故・後藤重郎名誉教授の旧蔵書で、『新古今和歌集』などを中心とした和歌関係の版本・写本など199点(500冊)及び『新古今和歌集』の古筆切120点からなる資料群です。

「古筆」とは、広い意味では古人の筆蹟ですが、特に平安時代から鎌倉時代にかけての名筆に限定されます。古筆の多くは、もともと巻子本や冊子本の形でしたが、室町時代の茶の湯の流行を背景に、「古筆切」と呼ばれる断片に分割され、掛軸などの茶席の装飾品に仕立てられました。このため散逸することが多かった古筆切ですが、時代を物語る貴重な資料として今日に伝えられています。

会期中、学生、教職員、一般の方など、合わせて1,194名の来場があり、特に、名大祭期間中には、多数の来場者を迎え盛況のうちに終了しました。

なお、今回の展示を含む120点の古筆切の資料は、附属図書館ホームページの所蔵コレクション一覧の「名大システム古典籍内容記述的データベース」で公開しています。



展示された古筆切

第23回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催

●附属図書館

附属図書館は、6月14日(火)、同館5階多目的室において、第23回友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催しました。

今回は、俳人で、国際俳句交流協会理事でもある加藤耕子氏による「俳句と HAIKU」と題した講演が行われ、学内外から27名の参加がありました。



講演する加藤氏

講演では、俳句は5・7・5の17音を定型とする世界で一番短い詩型である、といった定義にはじまり、句に折り込まれる季語の働きや、季語は旧暦に基づいていることなどの説明がありました。そして実際の句を例に、「五月晴れ」は5月のことではなく梅雨の晴れ間のことであるといったことや、自然や四季の移り変わりを感じる 것이重要であること、「切れ」による句の鑑賞の仕方などが解説されました。

また、日本の文化である俳句が英訳されて世界に広がり、英語俳句では3行で書き、17音ではなく17音節以下で詠むのが基本であるとか、日本の俳句は韻を踏まないが、中国では漢詩の伝統から韻を踏まないとい詩ではないという感覚があることなど、日本の俳句のルールにとらわれることなく、比較的自由的な形で受け入れられていることが紹介されました。

参加者からは、「俳句の成り立ちがよくわかった」、「英語俳句ではカンマ (,) やセミコロン (;)、ダッシュ (—) などで日本的深みを工夫していて面白く感じた」、「俳句の英訳の面白さが理解できた」、「もっと英語の俳句を読みたい」、などの感想が寄せられました。

受賞者一覧

褒章関係

受章日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H23. 4.29	春の褒章 紫綬褒章	理学研究科教授	近藤 孝男	詳細は本誌218号 p.7 参照
H23. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	横井 英夫	詳細は本誌218号 p.7 参照
H23. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	梶川 良一	詳細は本誌218号 p.7 参照
H23. 4.29	春の叙勲 瑞宝小綬章	名誉教授	外山 淳治	詳細は本誌218号 p.7 参照
H23. 4.29	春の叙勲 瑞宝単光章	元医学部附属病院看護部副看護部長	中條 育子	詳細は本誌218号 p.7 参照

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H22. 7. 1	国際植物生長物質会議 シルバーメダル	生物機能開発利用研究センター教授	松岡 信	
H23. 1.24	日本化学会 第60回進歩賞	大学院工学研究科講師	浦口 大輔	
H23. 2.22	第4回リバネス研究費ディスクヴァー・トゥエンティワン賞	年代測定総合研究センター研究員	今山 武志	
H23. 3. 3	第7回日本学術振興会賞	大学院多元数理科学研究科教授	伊山 修	
H23. 3. 3	第7回日本学術振興会賞	大学院工学研究科教授	大井 貴史	
H23. 3. 4	平成22年度土木学会中部支部優秀研究発表賞	高等研究院特任講師	中村 友昭	
H23. 3.14	日本機械学会東海支部賞 研究賞	大学院工学研究科准教授	山本 和弘	山下博史（大学院工学研究科教授）と連名
H23. 3.14	第16回ロポティクスシンポジウム 優秀論文賞	大学院工学研究科助教	岡本 正吾	
H23. 3.15	核融合エネルギーフォーラム 奨励賞	エコトピア科学研究所講師	梶田 信	
H23. 3.20	2010年度日本植物分類学会論文賞	博物館助教	西田佐知子	他2名と連名
H23. 3.24	第29回応用物理学会講演奨励賞	物質科学国際研究センター助教	宮田 耕充	
H23. 3.25	財団法人永井科学技術財団 第28回永井学術賞	大学院環境学研究科教授	日比野高士	
H23. 3.25	日本鉄鋼協会 学術貢献賞（浅田賞）	大学院工学研究科教授	平出 正孝	
H23. 3.28	日本化学会 第25回若い世代の特別講演会賞	大学院理学研究科助教	吉川 浩史	
H23. 3.28	Royal Society of Chemistry PCCP Prize	大学院工学研究科助教	檜田 啓	
H23. 3.29	日本育種学会奨励賞	大学院生命農学研究科助教	犬飼 義明	
H23. 3.29	入澤彩記念女性生理学者奨励賞	環境医学研究所教授	水村 和枝	
H23. 4. 5	平成23年度日本農学賞・第48回読売農学賞	名誉教授	並河 鷹夫	
H23. 4.20	平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞	太陽地球環境研究所准教授	関 華奈子	
H23. 4.20	平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞	大学院理学研究科准教授	北浦 良	
H23. 4.20	平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞	大学院環境学研究科准教授	桂木 洋光	
H23. 4.20	平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）	大学院工学研究科教授	佐藤 一雄	
H23. 4.20	平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞	大学院工学研究科講師	浦口 大輔	
H23. 4.20	平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞	大学院工学研究科准教授	西堀 英治	
H23. 4.21	日本機械学会 日本機械学会賞（技術）	大学院工学研究科教授	福田 敏男	池田誠一（大学院工学研究科非常勤研究員）と連名
H23. 4.21	日本機械学会 日本機械学会賞（論文）	大学院工学研究科教授	福田 敏男	新井史人（大学院工学研究科教授）と連名
H23. 4.21	日本機械学会 日本機械学会奨励賞（研究）	大学院工学研究科講師	奥村 大	
H23. 5. 6	農芸化学奨励賞	大学院生命農学研究科准教授	柴田 秀樹	
H23. 5. 9	ミュンスター大学名誉博士号	物質科学国際研究センター教授	巽 和行	
H23. 5.13	平成23年度 日本栄養・食糧学会 学会賞	大学院生命農学研究科教授	下村 吉治	
H23. 5.17	日本顕微鏡学会 奨励賞	エコトピア科学研究所助教	山崎 順	
H23. 5.17	日本熱処理技術協会 論文賞	大学院工学研究科教授	石川 孝司	
H23. 5.18	東海化学工業会賞	大学院工学研究科助教	伊藤 淳一	
H23. 5.20	ザイボルト賞	物質科学国際研究センター教授	巽 和行	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H23. 5.25	第64回中日文化賞	大学院医学系研究科教授	貝淵 弘三	
H23. 5.25	第64回中日文化賞	大学院理学研究科教授	篠原 久典	
H23. 5.25	地球電磁気・地球惑星圏学会 田中館賞	太陽地球環境研究所教授	徳丸 宗利	
H23. 5.25	第64回中日文化賞	名誉教授	宮治 昭	
H23. 5.25	粉体工学会 APT Distinguished Paper Award	エコトピア科学研究所教授	内山 知実	他 1 名と連名
H23. 5.25	平成22年度 道路と交通論文賞	エコトピア科学研究所准教授	三輪 富生	孫 迅 (環境学研究科 D3) と連名
H23. 5.25	平成22年度日本材料学会 学術奨励賞	大学院工学研究科講師	奥村 大	
H23. 5.26	2011年度日本写真学会賞進歩賞	現象解析研究センター特任助教	中 竜大	
H23. 5.26	IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2011 Analytical Sciences Poster Presentation Award	年代測定総合研究センター助教	小田 寛貴	吉田滯代 (物質科学国際研究センター COE 研究員) 他 3 名と連名
H23. 5.27	平成22年度土木学会論文奨励賞	高等研究院特任講師	中村 友昭	
H23. 5.27	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 ベストプレゼンテーション表彰	大学院工学研究科特任助教	野川 晃佑	
H23. 5.27	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 JRM 表彰	大学院工学研究科准教授	山西 陽子	
H23. 5.27	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 JRM 表彰	大学院工学研究科教授	新井 史人	
H23. 5.27	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 JRM 表彰	大学院工学研究科特任助教	市川 明彦	
H23. 5.27	日本塑性加工学会 日本塑性加工学会賞 技術開発賞	大学院工学研究科教授	石川 孝司	湯川伸樹 (大学院工学研究科准教授) と連名
H23. 5.28	平成22年度電子情報通信学会 論文賞	大学院情報科学研究科教授	酒井 正彦	坂部俊樹 (大学院情報科学研究科教授)、草刈圭一朗 (大学院情報科学研究科准教授)、西田直樹 (大学院情報科学研究科助教) と連名
H23. 5.28	船井情報科学振興財団 船井研究奨励賞	大学院工学研究科助教	岡本 正吾	
H23. 5.28	社団法人日本超音波医学会 第12回奨励賞	医学部附属病院医員	中村 陽介	廣岡芳樹 (医学部附属病院准教授)、伊藤彰浩 (医学部附属病院講師)、川嶋啓揮 (大学院医学系研究科助教)、大野栄三郎 (医学部附属病院助教)、松原 浩 (医学部附属病院医員)、伊藤裕也 (医学部附属病院医員)、平松 武 (医学部附属病院医員)、後藤秀実 (大学院医学系研究科教授) と連名
H23. 5.31	情報ストレージ研究推進機構 SRC 論文賞2010	大学院工学研究科講師	伊藤伸太郎	
H23. 5.31	情報ストレージ研究推進機構 SRC 論文賞2010	大学院工学研究科教授	福澤 健二	
H23. 6. 3	第65回日本セラミックス協会学術賞	大学院環境学研究科教授	日比野高士	
H23. 6.12	IEEE Robotics and Automation Society Best Manipulation Paper Award	大学院工学研究科助教	中島 正博	
H23. 6.12	IEEE Robotics and Automation Society Best Manipulation Paper Award	大学院工学研究科教授	福田 敏男	
H23. 6.12	IEEE Robotics and Automation Society Best Video Award	大学院工学研究科 COE 特任助教	川原 知洋	
H23. 6.12	IEEE Robotics and Automation Society Best Video Award	大学院工学研究科准教授	山西 陽子	
H23. 6.12	IEEE Robotics and Automation Society Best Video Award	大学院工学研究科教授	新井 史人	

学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H22.11.29	資源・素材学会関西支部 優秀発表賞	大学院工学研究科 M2	脇坂 晴樹	藤澤敏治 (大学院工学研究科教授)、佐野浩行 (大学院工学研究科助教) と連名
H23. 1.24	電気学会東海支部 電気学会優秀論文発表賞	大学院工学研究科 M2	鬼頭 豊明	
H23. 2.23	中小企業懸賞論文 金融部門本賞	経済学部 4 年	村西 研郎	他 4 名と連名

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H23. 3. 1	自動車技術会 大学院研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	森山 晃	
H23. 3. 1	電気学会東海支部長賞	工学部 4年	篠田 康生	
H23. 3. 5	自動車技術会 大学院研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	伊藤 優司	
H23. 3. 8	IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter Young Researcher Award	大学院工学研究科 M2	大谷 将司	田地宏一（大学院工学研究科准教授）、宇野洋二（大学院工学研究科教授）と連名
H23. 3.17	日本機械学会 生産システム部門 部門一般表彰	大学院工学研究科 M2	長田 知也	
H23. 3.23	日本化学会東海支部 日本化学会東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	関口 康司	
H23. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	理学部 4年	遠藤 友随	
H23. 3.25	日本化学会 東海支部長賞	大学院理学研究科 M2	西野 智雄	
H23. 3.25	応化会賞	大学院工学研究科 M2	柴田 宏之	
H23. 4.12	Editor's Choice in Journal of Electron Microscopy vol. 60 (2) (2011)	大学院工学研究科 D3	森下 茂幸	田中信夫（エコトピア科学研究所教授）、山崎 順（エコトピア科学研究所助教）と連名
H23. 4.15	日本航空宇宙学会 学生優秀講演賞	大学院工学研究科 M2	中村 陽一	
H23. 4.22	日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞	大学院工学研究科 D1	馮 林	
H23. 5. 5	ロボカップジャパンオープン2011 レスキューシミュレーションリーグ 優勝	大学院情報科学研究科 D2	太田 健文	鳥海不二夫（大学院情報科学研究科助教）と連名
H23. 5. 5	ロボカップジャパンオープン2011 計測自動制御学会賞	大学院情報科学研究科 D2	太田 健文	鳥海不二夫（大学院情報科学研究科助教）と連名
H23. 5.10	The 2nd FAPS Polymer Congress The Best Poster Award	大学院工学研究科 D1	提嶋 佳生	松下裕秀（大学院工学研究科教授）、野呂篤史（大学院工学研究科助教）と連名
H23. 5.11	IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter Young Award	大学院工学研究科 D3	申 亞京	
H23. 5.11	Kyushu University-Global COE Student Poster Competition Certificate of Award	大学院工学研究科 D1	岩花宗一郎	
H23. 5.13	第67回日本放射線技術学会総会学術大会 優秀学生研究発表賞	大学院医学系研究科 D1	齋藤 優希	
H23. 5.16	情報処理学会 東海支部 学生論文奨励賞	大学院情報科学研究科 D3	一場 利幸	
H23. 5.20	4th International Conference on Human System Interaction Best Presentation Award	大学院工学研究科 M2	永野 光	山田陽滋（大学院工学研究科教授）、岡本正吾（大学院工学研究科助教）と連名
H23. 5.25	第128回地球電磁気・地球惑星圏学会（SGEPSS）学生発表賞（オーロラメダル）	大学院理学研究科 D3	辻 裕司	
H23. 5.26	IUPAC International Congress on Analytical Sciences Springer Poster Presentation Award	大学院工学研究科 D2	内藤 豊裕	岡本行広（大学院工学研究科特任講師）、渡慶次 学（大学院工学研究科准教授）、馬場嘉信（大学院工学研究科教授）と連名
H23. 5.27	IUMAS-V Best Poster Award Silver Prize	大学院工学研究科 D3	タバビ アミール ホセイ	丹司敬義（エコトピア科学研究所教授）、他1名と連名
H23. 5.27	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 ベストプレゼンテーション表彰	大学院工学研究科 M2	櫛田 陽平	
H23. 5.27	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 JRM 表彰	大学院工学研究科 D1	佐久間臣耶	
H23. 6. 2	GSC ネットワーク 第5回 GSC Student Travel Grant Awards	大学院工学研究科 D3	越俣 良樹	
H23. 6. 3	電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞	大学院情報科学研究科 D3	道満 恵介	
H23. 6.10	日本地球惑星科学連合 固体地球科学セッション 第1回学生優秀発表賞	大学院環境学研究科 M2	西井 彩	
H23. 6.12	IEEE Robotics and Automation Society Best Manipulation Paper Award	大学院工学研究科 D3	申 亞京	
H23. 6.12	IEEE Robotics and Automation Society Best Video Award	大学院工学研究科 D2	萩原 将也	
H23. 6.12	IEEE Robotics and Automation Society Best Video Award	大学院工学研究科 D1	馮 林	

* 受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
1 東海学生卓球春季リーグ男子第2部：本学は1-4で日本福祉大学に敗れる	5.16 (月)	中日 (朝刊)
2 東海学生卓球春季リーグ女子第2部：本学は4-1で岐阜聖徳大学に、4-2で静岡大学に勝利する	5.16 (月)	中日 (朝刊)
3 現代日本訳百科 (432)：「意外な才能を発揮だ」町田 健文学研究科教授	5.16 (月)	中日 (朝刊)
4 竹内恒夫環境学研究科教授は「直ちにゼロ原発・2020年30% CO ₂ 削減」へのシナリオを提案する	5.16 (月)	中日 (朝刊)
5 山本章夫工学研究科教授は浜岡原子力発電所の冷却水に海水が混じたことについて「すでに冷温停止になっているのならただちに問題はないが、長期的には燃料被覆管に悪影響を及ぼす可能性がある」と指摘する	5.16 (月)	中日 (朝刊)
6 福和伸夫環境学研究科教授のグループの調査から、東日本大震災で浸水した地域が「沿岸低地」に集中していることが分かる	5.16 (月)	中日 (朝刊)
7 護 雅史環境学研究科准教授は東海、東南海、南海の3連動地震が起きた場合の被害について「沿岸地域の震災は津波だけではなく、低地は地盤が緩く地震の強烈な揺れや液状化の危険性も高い」と話す	5.16 (月)	中日 (朝刊)
8 福和伸夫環境学研究科教授は東海、東南海、南海の3連動地震への備えについて「東海のみならず、日本全体が試されている」と話す	5.16 (月)	中日 (朝刊)
9 辻 幸臣環境医学研究所助教ら 反復する心室細動（電氣的ストーム）の病態を分子レベルで解明	5.17 (火)	日刊工業
10 現代日本訳百科 (433)：「末永く競技を続けたい」町田 健文学研究科教授	5.17 (火)	中日 (朝刊)
11 医学部に株式会社新領域技術研究所が作製した「ヘリウム循環装置」初号機が納入される	5.17 (火)	日刊工業
12 鳥居新平医療技術短期大学部名誉教授は「L-92乳酸菌」について解説する	5.17 (火)	朝日 (朝刊)
13 本学は岡崎信用金庫と連携しセラミック製住宅用外壁材を開発する	5.17 (火)	日経 (朝刊) 日刊工業 中日 (朝刊)
14 新井史人工学研究科教授ら 高速・高精度で細胞操作できるマイクロロボットを開発	5.17 (火) 5.23 (月) 6. 2 (木)	中日 (朝刊) 日刊工業 朝日 (夕刊)
15 公開講演会「オルメカ文明の謎 起源とその発展」開催：20日 伊藤伸幸文学研究科助教が講演	5.17 (火)	中日 (夕刊)
16 現代日本訳百科 (434)：「ばらまきかと聞かれれば、そうかもしれない」町田 健文学研究科教授	5.18 (水)	中日 (朝刊)
17 本学などの研究グループ 浮遊惑星という新たな系外惑星が多く存在していることを発見	5.19 (木)	中日 (朝刊) 他5社
18 第7回世界フットボール科学会議開催：26～30日 学会長を務める布目寛幸総合保健体育科学センター准教授は「最新のスポーツ科学と実際の指導現場を橋渡しする学会にしたい」と話す	5.19 (木)	中日 (朝刊)
19 現代日本訳百科 (435)：「加速度的に増やす」町田 健文学研究科教授	5.19 (木)	中日 (朝刊)
20 山岡耕春環境学研究科教授は「次の東南海地震が起きたら、東海地震が連動して発生する可能性が極めて高い」と話す	5.19 (木)	読売
21 今津孝次郎本学名誉教授は金城学院中学校・高等学校の生徒が作成した「ケータイ手引書」を使った保護者対象学習会の講師を務める	5.19 (木)	朝日 (朝刊)
22 がんを生き抜くライフトピクス開催：29日、7月17日、10月23日、平成24年3月4日	5.19 (木)	中日 (朝刊)
23 名大カフェ「神秘と魅力－昆虫の世界」開催：6月1日 サイエンス・コミュニケーション推進室主催	5.19 (木)	中日 (夕刊)
24 竹内恒夫環境学研究科教授は「原発ゼロでも大都市圏の電力は十分賄えて、温室効果ガスも大幅に削減できる」と話す	5.20 (金)	中日 (朝刊)
25 大脇申子男就職支援室長は震災後の就職活動について「学生には能動的に動くよう呼びかけている」と話す	5.20 (金)	中日 (朝刊)
26 博物館体験ワークショップ 石器から学ぶ文化と自然「黒曜石が産んだ石器文化」開催：6月11日	5.20 (金)	中日 (朝刊)
27 紙つぶて：論文を通す 森 郁恵理学研究科教授	5.20 (金)	中日 (夕刊)
28 中日文化センター新講座：「解読・シェークスピア劇場」岩崎宗治本学名誉教授	5.20 (金)	中日 (夕刊)
29 本学の留学生担当者は「原発事故の日本の対応によって、今後の留学生数が大きく左右される」と話す	5.21 (土)	朝日 (夕刊)
30 名古屋帝国大学がNHKの朝の連続ドラマ「おひさま」の舞台の1つとして登場する	5.22 (日)	中日 (朝刊) サンデー版
31 日本神経学会総会の学術大会会長を務める祖父江 元医学系研究科教授は「現場の感覚を共有でき、まず第一の目的を達成できた」と話す	5.22 (日)	中日 (朝刊)
32 現代日本訳百科 (436)：「罵詈雑言を叫ぶ」町田 健文学研究科教授	5.23 (月)	中日 (朝刊)
33 本学は北極観測強化を目指す横断的組織設立に参加する	5.23 (月)	日経 (朝刊)
34 本学、海洋保安庁、東北大学のグループが2000年頃からGPSを応用して海底観測を行っていることが紹介される	5.23 (月)	日経 (朝刊)
35 福和伸夫環境学研究科教授は愛知県が「基幹的広域防災拠点」を名古屋圏に設置するよう政府の要望を強めていることについて「国や県がその気になれば、空港周辺の農地など活用できる用地は十分ある」と話す	5.23 (月)	読売
36 本学の柔道場の改修工事が完了した記念に本学と大阪大学の柔道対抗戦が行われる	5.23 (月)	中日 (朝刊)
37 東海北陸医歯薬系大学ラグビー：医学部チームは浜松医科大学チームに5-19で敗れる	5.23 (月)	中日 (朝刊)
38 ハンドボール東海学生リーグ：本学は17-39で名城大学に敗れる	5.23 (月)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
39 川崎浩司工学研究科准教授らの調査で東海、東南海、南海地震の3連動地震がマグニチュード9.0規模となると津波の到達時間が想定より最大で10分程度早まる可能性があることが分かる	5.23 (月) 5.30 (月)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 日経 (朝刊)
40 中日文化センター新講座:「サンスクリット語入門」平野克典文学研究科 COE 特任助教	5.23 (月)	中日 (夕刊)
41 現代日本誤百科 (437):「未来を信じた寄付」町田 健文学研究科教授	5.24 (火)	中日 (朝刊)
42 竹内弘行本学名誉教授は改革解放政策下の中国で儒教が復活してきていることを指摘する	5.24 (火)	中日 (朝刊)
43 本学は浜岡原子力発電所全面停止を受け、節電対策として前期授業を1週間短縮する	5.25 (水)	中日 (朝刊) 他2社
44 現代日本誤百科 (438):この「商品の価値観」を高める 町田 健文学研究科教授	5.25 (水)	中日 (朝刊)
45 川崎浩司工学研究科准教授は「幅広い防災意識の徹底が一段と重要性を増している」と話す	5.25 (水)	中日 (朝刊)
46 数理ウェブ開催:28日 大沢健夫多元数理科学研究科教授が話す	5.25 (水)	中日 (朝刊)
47 現代日本誤百科 (439):「高齢化に向かう」町田 健文学研究科教授	5.26 (木)	中日 (朝刊)
48 本学と愛知県医師会が被災地で開院している医療機関を携帯電話ホームページで検索できるサービスを福島県で始める	5.26 (木)	中日 (朝刊)
49 「アフガニスタン写真展『名古屋大学中央アジア栄養適応調査-1968-』の記録」開催:6月2日～8月31日	5.26 (木)	読売
50 本学は被災地支援として全国大学生協連合などのボランティアを学生に紹介する	5.27 (金)	中日 (朝刊)
51 名古屋大学震災関連シンポジウム「東日本大震災から学ぶ」開催:6月11日	5.27 (金) 6.9 (木) 6.10 (金)	中日 (朝刊) 読売 毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
52 紙つぶて:猿橋賞に思う 森 郁恵理学研究科教授	5.27 (金)	中日 (夕刊)
53 博物館特別講演会「海岸から深海まで…ときどき空も飛ぶ?! なんと多様なフジツボの世界」開催:6月4日	5.28 (土)	朝日 (朝刊)
54 篠原久典理学研究科教授の中日文化賞受賞の言葉が紹介される	5.28 (土)	中日 (朝刊)
55 太田美智男本学名誉教授は食中毒について解説する	5.28 (土)	朝日 (朝刊)
56 小林 誠本学特別教授、益川敏英同特別教授などの弟子たちが故・坂田昌一元本学理学部長の日記の刊行会を発足させる	5.29 (日)	中日 (朝刊)
57 現代日本誤百科 (440):「おいでいただくのは可能でしょうか」町田 健文学研究科教授	5.30 (月)	中日 (朝刊)
58 鈴置保雄工学研究科教授は「テクノルネサンスジャパン 第4回 企業に研究開発してほしい未来の夢アイデア・コンテスト」に応援メッセージを贈る	5.30 (月)	日経 (朝刊)
59 護 雅史環境学研究科准教授は愛知県で家屋の耐震化が進まない状況について「費用を工面できない人もいる。難しい問題だ」と話す	5.30 (月)	中日 (朝刊)
60 東洋文化振興会例会開催:6月11日 塩村 耕文学研究科教授が講演	5.30 (月)	中日 (夕刊)
61 辻本哲郎工学研究科教授は長良川河口堰の開門による影響を調査する検証チームのメンバーに選ばれる	5.30 (月) 5.31 (月)	中日 (夕刊) 読売
62 公開講座「元気に老いる～『古い』を自覚するとき～」開催:6月10日 井口昭久本学名誉教授が講演	5.31 (月)	中日 (朝刊)
63 本学の浜岡原子力発電所停止を受けての節電対策が紹介され、濱口総長は「臨時的な措置だが、大学もできる範囲で節電に協力したい」と話す	5.31 (火)	朝日 (夕刊)
64 本学は「航空機開発 DBT リーダーシップ養成講座」を4日に開講する	6.1 (水)	日刊工業
65 現代日本誤百科 (441):兄が「手術になった」町田 健文学研究科教授	6.1 (水)	中日 (朝刊)
66 ES 総合館が完成し、1日に記念式典が開催される	6.2 (木)	中日 (朝刊) 他2社
67 次世代自動車産業展2011開催:6月15～17日 出展する石川孝司工学研究科教授の研究室が紹介される	6.2 (木)	日刊工業
68 現代日本誤百科 (442):「世相を減多切る」町田 健文学研究科教授	6.2 (木)	中日 (朝刊)
69 本学が参加する社会実験「名チャリプロジェクト」有料化に伴い登録者数が減少	6.2 (木)	日経 (朝刊)
70 間瀬健二情報科学研究科教授は2011年度人工知能学会全国大会でプログラム委員長を務める	6.2 (木)	岩手日報
71 小橋 真工学研究科准教授らのグループ NEDO 助成事業で高耐熱性発砲金属を開発	6.3 (金)	日刊工業
72 春名幹男国際言語文化研究科特任教授は菅 直人首相の不信任案をめぐる諸問題について「結局は政治の問題」と語る	6.3 (金)	中日 (朝刊)
73 本学など9大学の法科大学院合同説明会開催:18日	6.3 (金)	中日 (朝刊)
74 紙つぶて:研究室の主宰 森 郁恵理学研究科教授	6.3 (金)	中日 (夕刊)
75 山岡耕春環境学研究科教授は愛知県の防災会議で今後の想定見直しのポイントを解説、今後への提言を行う	6.3 (金) 6.4 (土)	朝日 (夕刊) 中日 (朝刊)
76 野依良治本学特別教授は科学者の視点から東日本大震災後について語る	6.5 (日)	中日 (朝刊)
77 本学は110研究室・300人規模で東日本大震災被災学生の受け入れ態勢を整えたが、これまでの応募者は教員1人と学生1人となっている	6.5 (日)	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
78 山田純生医学部保健学科教授らのグループの研究で軽度の脳梗塞を患った人のうち3割が3年以内に再発することが分かる	6. 5 (日)	中日 (朝刊)
79 高村ゆかり環境学研究科教授は前環境相が地球温暖化対策基本法案に関し温室効果ガス25%削減の目標を削除した案を自民党に提示したことについて「国際交渉に悪影響を与える」と語る	6. 6 (月)	中日 (朝刊)
80 東海大学サッカーリーグ：本学は四日市大学に4-4で引き分ける	6. 6 (月)	中日 (朝刊)
81 現代日本誤百科 (443)：「人見知りして連絡しない」町田 健文学研究科教授	6. 6 (月)	中日 (朝刊)
82 本学や神戸大学などの研究チーム 古代人が草丈の低くなる突然変異のイネを選んで栽培していたことを突き止める	6. 7 (火)	中日 (朝刊) 他3社
83 現代日本誤百科 (444)：「大事故から生き残る」町田 健文学研究科教授	6. 7 (火)	中日 (朝刊)
84 菅瀬和弘さん本学学生はパノラマビューに文字情報を加えるアイフォーン用のアプリを作成する	6. 7 (火)	中日 (朝刊)
85 あいち九条の会開催：19日 森 英樹本学名誉教授	6. 8 (水)	中日 (朝刊)
86 現代日本誤百科 (445)：どうぞ「お座りください」町田 健文学研究科教授	6. 8 (水)	中日 (朝刊)
87 福和伸夫環境学研究科教授はCBCの番組「イッポウススペシャル・被災地からの警鐘～東日本大震災 私たちが追った3ヵ月」にゲスト出演する	6. 8 (水)	中日 (夕刊)
88 本学は富山大学とともにモンゴル科学技術大学とレアアースに関する包括協定を締結する	6. 9 (木)	中日 (朝刊) 他2社
89 現代日本誤百科 (446)：「伸び代」のある選手 町田 健文学研究科教授	6. 9 (木)	中日 (朝刊)
90 石原一彰工学研究科教授は河合塾のインターネットサイト「今こそ、学問の話をしよう」に出演し、中高生に向けたメッセージを贈る	6. 9 (木)	中日 (朝刊)
91 鈴木康弘環境学研究科教授は福島第一原子力発電所の事故について「津波の規模ばかりに目をとらわれていると、地震が及ぼした影響が軽んじられる恐れもある」と話す	6. 9 (木)	中日 (朝刊)
92 第一回 NAGOYA からのニッポン復活 応援シンポジウム「震災時の企業リスクマネジメントとBCP(事業継続計画)開催：30日 福和伸夫環境学研究科教授が講演	6.10 (金)	日経 (朝刊)
93 鷺谷 威環境学研究科教授は地震予知の大前提への疑問を投げかける	6.10 (金)	中日 (朝刊)
94 野田利弘工学研究科教授は「軟弱地盤といってもいろいろ。砂やシルト、粘土など地質で被害は異なる」と話す	6.10 (金)	読売
95 紙つぶて：疑う尊さ 森 郁恵理学研究科教授	6.10 (金)	中日 (夕刊)
96 本学などの学生が「愛知の学生大ミーティング」に参加する	6.11 (土) 6.12 (日)	読売 中日 (朝刊)
97 本学などの主要研究大学11校は仙台市内で震災復興シンポジウムを開く	6.11 (土) 6.12 (日)	中日 (夕刊) 日経 (朝刊)
98 11日に開催された名古屋大学震災関連シンポジウム「東日本大震災から学ぶ」の様子が紹介される	6.12 (日)	読売 他2社
99 現代日本誤百科 (447)：奇跡への「予兆が始まる」町田 健文学研究科教授	6.14 (火)	中日 (朝刊)
100 西澤邦秀本学名誉教授は「主な放射性物質の中でもストロンチウムとプルトニウムの2つの危険度が高い」と指摘する	6.14 (火)	中日 (朝刊)
101 東山キャンパスのギャラリー「clas」が紹介される	6.14 (火)	朝日 (朝刊)
102 愛知陸上尾張支部予選：中野祥平さん本学学生 棒高跳び1位	6.14 (火)	中日 (朝刊)
103 東海大学サッカーリーグ2部：本学は愛知大学に2-1で勝利する	6.14 (火)	中日 (朝刊)
104 川崎浩司工学研究科准教授の調査でマグニチュード9.0級の東海、東南海、南海の3連動地震が発生すればこれまで被害想定になかった名古屋港周辺の市街地も浸水することが分かる	6.14 (火) 6.15 (水)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
105 春の褒章：紫綬褒章 近藤孝男理学研究科教授	6.15 (水)	中日 (朝刊)
106 森 郁恵理学研究科教授 線虫を使った実験で神経ネットワークの情報伝達に新たな発見をする	6.15 (水)	中日 (朝刊)
107 藤井理事は名古屋市防災会議で巨大地震を受けての緊急提言を行う	6.15 (水)	読売 日経 (朝刊)
108 現代日本誤百科 (448)：「友だち思いな人」町田 健文学研究科教授	6.15 (水)	中日 (朝刊)
109 熱田直樹医学部附属病院助教は日本 ALS 協会愛知県支部総会で「高齢化の進行によって60～70代での発症が多いALS患者数が増加している」と話す	6.15 (水)	中日 (朝刊)
110 小林 誠本学特別教授は高エネルギー加速器研究機構などがニュートリノの変身兆候を検出したことについて「ノーベル賞級の成果につながる重要な一歩」と語る	6.15 (水)	中日 (夕刊)

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

4月26日(火)～8月31日(水)

場 所：博物館 2階展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日、
8月13日、16日臨時休館

入 場 料：無料

第15回博物館特別展

「深海の生物と古生物

ー知多の化石から生きているウミユリまで」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

6月2日(木)～8月31日(水)

場 所：博物館野外観察園

セミナーハウス 2階

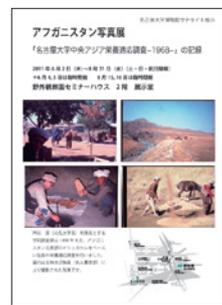
時 間：10:00～16:00

休 館 日：土・日曜日・祝日、
8月15日～16日臨時閉館

入 場 料：無料

アフガニスタン写真展

テ ー マ：『「名古屋大学中央アジア栄養適応調査-1968-」の記録』



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

7月17日(日)、10月23日(日)、3月4日(日)

場 所：医学部保健学科東館 4階大講義室

時 間：13:30～16:30

参 加 費：2,000円(全4回)

平成23年度がんを生き抜くライフピアスクール

内 容：「クラス交流」、「患者会情報」(7/17)

「がんの治療法」、「アップデート」(10/23)

「明るく病気と向き合う」、「修了式」(3/4)

[問い合わせ先]

医学部保健学科 GP 事務室 052-719-3158

7月23日(土)、8月6日(土)、8月20日(土)

場 所：インキュベーション施設 1階

プレゼンテーションルーム

時 間：10:00～

参 加 費：無料

ビジネス人材育成センター

平成23年度前期 B 人セミナー

テ ー マ：「弁理士の業界と業務」、「再生医療の現状と今後の展望」(7/23)

「なぜ、あの人は惚れ惚れするほど、コミュニケーション上手なのか?」(8/6)

「バイオ業界の現状と求められる“人財”」、「プロフィールシート作成講座」(8/20)

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

ビジネス人材育成センター 052-747-6490

7月26日(火)

場 所：大阪市ドーンセンター

時 間：10:30～16:30

参 加 費：無料

がんプロフェッショナル養成プラン

「西日本がんプロネットワークによる市民公開シンポジウム」

テ ー マ：「あなたのがん治療は、どうやってきまるの?」

内 容：西日本地区のがんプロフェッショナル養成プラン拠点が合同で開催する
市民向けの公開シンポジウム

[問い合わせ先]

医学部・医学系研究科

学務課 052-744-1981

7月26日(火)

場 所：ウインクあいち11階中ホール

時 間：14:00～16:00

定 員：70名

入 場 料：無料

環境学研究科しんきん環境事業イノベーション寄附講座

第2回環境学公開講演会

テ ー マ：「持続可能な社会を考えるー私たちが今できることはー」

講演題目：「魚食文化と環境の変化」

講 演 者：神谷友成氏(中部水産株式会社販売促進部長)

講演題目：「食品の廃棄とリサイクルー『もったいない』と持続可能な社会ー」

講 演 者：淡路和則(生命農学研究科准教授)

[問い合わせ先]

環境学研究科

しんきん環境事業イノベーション寄附講座

事務室 052-747-6550

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月28日(木)

場 所：博物館 2階実験室・3階講義室
時 間：10:00～16:30
定 員：20名
対 象：小学5年生から中学3年生
参 加 費：無料

ひらめき☆ときめきサイエンス
～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI
テ ー マ：「博物館のバックヤードに行ってみよう！
化石から学ぶ生命進化」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

7月29日(金)

場 所：IB 電子情報館
時 間：9:00～
定 員：36名
対 象：高校生
参 加 費：無料

テクノフロンティアセミナー

テ ー マ：「一触れてみよう、電子と情報の最先端に」

[問い合わせ先]

工学部テクノフロンティアセミナー
実行委員会 052-789-4425

7月30日(土)

場 所：教育学部3階E演習室
時 間：15:00～18:00
参 加 費：無料

公開レクチャー

講演題目：「なかなか大人にならない若者たちー成人形成期 Emerging adulthood の意識とアイデンティティ形成、イタリアの場合」
講 演 者：エリザベータ・クロセッティ氏 (ビコッカ大学研究員)

[問い合わせ先]

発達心理精神科学教育研究センター事務室
052-789-2658

8月1日(月)～3日(水)

場 所：野依記念物質科学研究館
時 間：12:00～14:00 (8/1)、
13:30～15:30 (8/2、3)
対 象：高校生、大学生 (定員18名)
参 加 費：無料 (応募者多数の場合抽選)

ES館開館記念特別講座ランチョン・フォーラム

内 容：野依教授とのランチョンフォーラム、
野依研究室教員による「不斉とは？～基礎講座」



[問い合わせ先]

高等研究院
准教授 斎藤 進 052-789-5945

8月6日(土)

場 所：博物館展示室
時 間：14:00～15:00
参 加 費：無料

博物館コンサート (NUMCo)

テ ー マ：「リズムを刻もう1・2・3」
演 奏 者：フルリン打 (松原雅美氏 (フルート・ピッコロ)、
松原昭仁氏 (マリンバ)、林 美春氏 (打楽器))

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

8月7日(日)

場 所：IB 電子情報館
時 間：10:00～16:00
対 象：高校生、高校生相当年齢の者
(日本数学コンクール)、
小学5年生から中学生
(日本ジュニア数学コンクール)
参 加 費：1,000円

第22回日本数学コンクール、
第15回日本ジュニア数学コンクール



[問い合わせ先]

研究協力部社会連携課
日本数学コンクール係 052-788-6144

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月8日(月)

場 所：工学研究科 1号館他
時 間：8:45～17:00
対 象：高校生
参 加 費：無料

名古屋大学
化学・生物実験講習会
テ ー マ：「大学の化学を体験しよう」

[問い合わせ先]
工学部化学・生物実験講習会実行委員会
nii@nuce.nagoya-u.ac.jp

8月9日(火)～8月11日(木)

場 所：豊田講堂他
時 間：9:30～
参 加 費：無料

2011年度オープンキャンパス
内 容：施設・キャンパス見学のほか、学部紹介コーナー、個別相談会、
模擬講義など様々なプログラムを用意
8/9 教育学部、経済学部、工学部
8/10 法学部、医学部医学科、農学部
8/11 文学部、情報文化学部、医学部保健学科、理学部

[問い合わせ先]
学務部入試課 052-789-5765

8月10日(水)

場 所：工学研究科 5号館
時 間：9:00～17:00
定 員：50名程度
対 象：東海地区の高校生
参 加 費：無料

テクノサイエンスセミナー
テ ー マ：「物理の世界にあそぶ」

[問い合わせ先]
工学研究科
教授 平澤政廣 052-789-3354

8月11日(木)

場 所：野依記念学術交流館 2階
カンファレンスホール
時 間：12:15～12:45
(サイン会：11:45～12:10、
12:45～13:15)
参 加 費：無料 (応募者多数の場合抽選)

名古屋大学オープンキャンパス2011
野依良治博士トークセッション
内 容：野依特別教授と超一流の科学者の熱気に触れたい、超一流になりたい
高校生とのトークセッション「野依先生に聞いてみよう!」、
生協によるサイン会、書籍販売

[問い合わせ先]
高等研究院
准教授 斎藤 進 052-789-5945

8月18日(木)～10月20日(木) (毎週火・木曜日)

場 所：シンポジオンホール
時 間：18:00～19:30
定 員：200名
参 加 費：9,200円 (全15回)

平成23年度名古屋大学
公開講座
テ ー マ：「夢見た今と夢見る未来」

[問い合わせ先]
研究協力部
社会連携課社会連携掛 052-747-6584



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月27日(土)～8月28日(日)

場 所：矢作川（岡崎市：27日）、
博物館（28日）

時 間： 9:30～15:30（8/27）、
13:30～16:30（8/28）

定 員：30名

対 象：小学3年生から中学3年生と
その保護者（中学生は個人参加も可）

参 加 費：1,000円

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

第2回地球教室

テ ー マ：「砂の中から宝石をさがそう！」

内 容：鉱物について学び、矢作川の河原で砂を採集し、
その砂の中から様々な鉱物を探す



8月28日(日)

場 所：理学研究科臨海実験所
（三重県鳥羽市菅島町429-63）

時 間：10:10～16:20

定 員：20名

対 象：小学5年生から高校生

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

理学研究科臨海実験所

東山分室 052-789-2514

ひらめき☆ときめきサイエンス

～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：「海の生物を採集し受精発生のしくみを調べてみよう」

9月2日(金)

場 所：豊田講堂・
シンポジウムホール他

時 間：10:00～17:00

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

工学部・工学研究科

総務課社会連携室 052-789-3425

テクノフェア名大2011

テ ー マ：「名大ものづくり最前線ー創造から技術へー」

講演題目：「悪魔の表面から天使の表面へ：表面技術」

講 演 者：齋藤永宏（エコトピア科学研究所教授）

講演題目：「世界を照らすLED」

講 演 者：天野 浩（工学研究科教授）

内 容：将来性がある最先端の研究成果を公開し、本学が産業界や地域
社会と今以上に連携し、より発展するための機会になることを
目的に、基調講演、ブース展示、ミニ講演、研究室見学を実施



10月5日(水)、10月26日(水)

場 所：野依記念学術交流館2階
カンファレンスホール

時 間：16:30～18:00

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

GCOE 事務局

gcoe-office@chem.nagoya-u.ac.jp

グローバル COE プログラム

「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」

化学系セミナー

講演題目：「化学ツールを活用したニューバイオテクノロジー」(10/5)

講 演 者：小宮山 真氏（東京大学先端科学技術研究センター教授）

講演題目：「 π 電子系分子種の配列制御ー分子周りのデザインー」(10/26)

講 演 者：竹内正之氏（物質・材料研究機構グループリーダー）

10月15日(土)

場 所：東山キャンパス

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

総務部総務課企画調整掛 052-747-6558

第7回ホームカミングデイ（創基140周年）

テ ー マ：「地域と大学で考える 未来を耕す『人・緑・食』」

内 容：学術講演会、名古屋フィルハーモニー交響楽団によるコンサート、
名古屋グランパスによるサッカー教室、
名古屋大学理系女子による科学実験など

名大トピックス No.218 平成23年7月15日発行

編集・発行／名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

ES 総合館 1階ロビー
(平成23年6月14日)



111 名大祭以前の名大大学祭

本誌の3ページのように、今年も名大祭が盛大に開催されました。1960(昭和35)年の第1回から中断することなく続けられ、今回で52回を数えます。

ところで、第1回名大祭より前の時代に、名古屋大学に大学祭がなかったわけではありません。1939(昭和14)年に創立された名古屋帝国大学は、理・医・工の3学部がそろった翌年の1943年に開学記念式を開催しました。大学施設の市民への公開もおこなわれており、この年が名大祭の源流ともいえるでしょうか。

そして、敗戦後の名大の大学祭は、「開学記念祭」としておこなわれるようになりました。開催時期は、1951(昭和26)年までは11月初旬でしたが、52年からは5月下旬もしくは6月初旬とされ、全国でも珍しい名大祭の初夏開催はここに由来しています。57年からは、名称を「大学祭」と改めました。

現在、大学文書資料室には、1956(昭和31)年の開学記念

祭と57年の大学祭のパンフレット(プログラム)が保存されています。ここから、名大祭開始以前の名大の大学祭の一端を知ることができます。

この頃の名大の大学祭(開学記念祭)は、映画上映会や講演会、体育祭、演劇・演奏会などからなっていましたが、催しの数は現在の名大祭とは比較にならないほど少なく、しかも長い期間に分散して開催されていました。学部が各地に分散していたこの時代、いわゆる大学祭の役割を担っていたのは、学部ごとの文化祭でした。ただ、56年の開学記念祭では、現在も名大祭の伝統的企画として市民にも親しまれている仮装行列がすでにおこなわれており、名大祭の原型を見ることもできます。

2つのパンフレットのあとがきには、何とか学部を超えた学生の交流、市民との交流をはかりたいという願いが綴られています。1960年の名大祭誕生の背景もここにありといえます。



名古屋大学		
昭和31年度開学記念祭プログラム		
前夜祭	5月20日(日)18時~21時	アイヤモンド
音楽祭	5月26日(土)2時	医学部音楽部
学部別体育祭	5月27日(日)26日(日)9時	教養部体育部
謡と仕舞の会	6月2日(土)1時	中日会館
「電子力」映画講演会	6月2日(土)1時半	工学部大講義室
仮装行列とフィヤーストーム	6月2日(土)2時	教養部 庭園公園
フオーダンスの会	6月3日(日)2時	経済学部演劇部
文化講演会	6月9日(土)2時	医学部音楽部
映画会	6月16日(土)1時、4時	労働会館
映画写真展	6月16日(土)~21日(木)	応4階 厚生堂
音楽会	6月16日(土)2時、6時	医学部音楽部
演劇	6月17日(日)18時、20時	合順ビルホール

主催 名古屋大学



1	3
2	4

- 1957(昭和32)年度大学祭のパンフレット。
- 1956(昭和31)年度開学記念祭のプログラム。主催は、現在の名大祭のように実行委員会ではなく、名古屋大学であった。また、年ごとのテーマも設定されていない。
- 開学記念祭の仮装行列(年不明)。1956年は、瑞穂にあった分校(教養部)から鶴舞公園までがコースになっていた。
- 開学記念祭の中でおこなわれた医学展(年不明)。1957年の大学祭プログラムによると、鶴舞で「医学祭」が開催され、3日間にわたって医学展がおこなわれている。